

動物の診察室から

○ 33 ○

6月のはじめ、フレンチブルの男の子が、後ろ足が急に力が入らなくなったとのことで来院しました。

前足の神経的反射も鈍くなっていましたので、脳から頸髄の症状が疑わ

は、外科的に切除する方法、放射線療法、抗がん剤の投与などがありました。ピグちゃんの脳腫瘍は、脳の外側ではなく中心にあります。側脳室とは、脳の内部の脳脊髄液があるところで、その



無事手術を終えて、新潟へ戻ったピグちゃん

脳手術からの生還

1カ月の間にさらに大きくなっており、そのまま入院して、4日後に手術です。

で、2週間少して飼い主さんの元へ帰ることができました。ピグちゃんの腫瘍は脳の奥まで続いておりすべてはとりきれませんでした。が、病理検査の結果、悪性の度が低いとわかったため、

高いリスクを乗り越え

今後は3週間

れました。内科的なステロイドの投与で、症状はだいぶよくなりましたが、神経学的検査では、まだ正常ではありませんでした。

その子の名前は「ピグメント」。まだ6歳です。

6月の半ばに原因を調べるために、頭部のCT検査を行い、その結果、左側脳室に脳腫瘍があることがわかりました。その腫瘍はすでにかなり大き

くなっており、早急な対応が必要でした。脳腫瘍の治療として

腫瘍をとるためには、大脳を少し切開し、小さなすき間から腫瘍を取り出さなければなりません。獣医科の大病院でも、脳表の腫瘍は摘出手術を行うところはあります。が、脳内部の腫瘍外科に

対応している神奈川の大病院で画像を見ても

腫瘍をとるためには、大脳を少し切開し、小さなすき間から腫瘍を取り出さなければなりません。獣医科の大病院でも、脳表の腫瘍は摘出手術を行うところはあります。が、脳内部の腫瘍外科に

手術当日、大病院へ行くこと、すでに麻酔がかかっており午前11時前に手術が始まりました。別結果右の視力を失いますが、一命をとりとめることができました。ピグちゃんの脳腫瘍との戦いはまだまだ続きます。でも周りには、ピグちゃんを大事に思う人たちがたくさんいます。ピグちゃん、がんばろうね